

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-12

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町戦没者追悼式			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	過ぐる戦争における雄武町戦没者の英霊に対し、追悼の誠を捧げるとともに、平和への誓いを新たにすることを目的とし、雄武町戦没者追悼式を実施する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単 位 施 策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,143千円	150千円	170千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,143千円	150千円	170千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	平和と繁栄を築いた先人に対する敬愛及び平和に慣れ、戦争の惨劇を忘れるおそれがある。		追悼式の開催		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	常に平和と繁栄を築いた先人に対する敬愛と平和への誓いを新たにする。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	先人に対する敬愛と恒久平和が維持される。		① 開催回数	目標年度	19年度
			目標値	1回	
			実績値	1回	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①追悼式の開催	過ぐる戦争における雄武町戦没者の霊に対し、追悼の誠を捧げるとともに、平和への誓いを新たにするため、戦没者追悼式を実施した。(屋内開催)				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	本町における平和と繁栄を築いた先人に対する追悼の誠を捧げ、平和への誓いを新たにするため必要な事業である。当該事業を実施しない場合、戦争の惨劇などが現代に生きる世代に伝わらず、平和への誓いや先人に対する感謝の気持ちが希薄となる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、平和と繁栄を築いた先人に対する敬愛及び平和への誓いを新たにすることができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	平成18年度より屋内開催にすることで、祭壇に係る経費を抑制し、協力人員の抑制及び準備時間も短縮もすることができている。これ以上のコスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
戦争の悲惨さを知らない者に対し、恒久平和を願うためにも戦没者追悼式の開催は必要不可欠なものである。町として、平和祈願に対する姿勢を示すうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
本町における平和と繁栄を築いた先人に対する追悼の誠を捧げ、平和への誓いを新たにする役割を担っており、引き続き実施すべき事業である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-13

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町社会福祉協議会補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				係長
事業の概要	地域福祉活動の中核的な役割を担っている社会福祉協議会の組織強化、運営基盤の安定を図ることを目的として、事務局職員1名分の人件費の一部補助を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単位施策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	雄武町社会福祉法人の助成に関する条例		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	6,670千円	3,000千円	3,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	6,670千円	3,000千円	3,000千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町社会福祉協議会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
【抱える課題やニーズは】	運営基盤が脆弱である。	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	事業運営の円滑化を図る。	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	各種地域福祉活動やボランティアの育成などが積極的に実施される。	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)		指標／目標
①社会福祉協議会への運営費補助	雄武町社会福祉協議会に対して、専門員1名分の人件費の補助を行う。	指標(指標計算式/解説)
②		目標値及び実績値
③		① 運営基盤の安定
		目標年度
		19年度
		目標値
		3000千円
		実績値
		3000千円
		達成度
		100%
		②
		目標年度
		年度
		目標値
		実績値
		達成度
		%

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	地域の社会福祉活動を推進するため、行政として支援する必要がある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	補助の実施により、各種事業が円滑に実施された。
有効／概ね有効／課題あり		

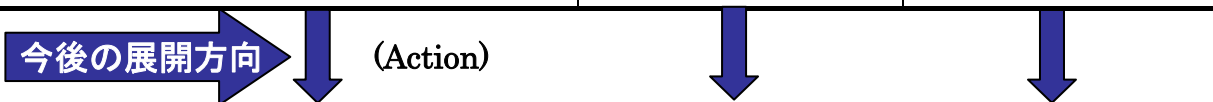
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	平成19年度より、人件費2名分から1名分に削減を行ったが、運営基盤の安定を図るためにも、引き続き実施すべき事業である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会の運営基盤の安定を図ることは、町民の福祉の向上に必要不可欠であることから、計画どおり事業を進めることが必要である。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
地域福祉の向上発展に必要不可欠であることから、引き続き実施すべき事業である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-14

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町民生児童委員協議会運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	民生委員・児童委員の基本理念に基づき、地域における高齢者等の生活状況の把握や相談援助指導等を行い、地域福祉の推進を担っている、雄武町民生児童委員協議会の活動の充実を図ることを目的として、運営費の補助を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武町～保健・医療・福祉の充実	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単 位 施 策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	53千円	53千円	53千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	53千円	53千円	53千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町民生児童委員協議会	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	高齢者等を取り巻く環境が大きく変化する中、担当地区における課題も多様化している。		運営補助金の交付		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	事業運営基盤の安定を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者等が安心して生活することができる。		① 交付実績	目標年度	19年度
			目標値		
			実績値	53千円	
			達成度	%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①雄武町民生児童委員協議会への運営費補助	運営補助金の交付				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	高齢者を取り巻く環境が大きく変化する中、民生委員・児童委員の責務は大きくなっており、団体における運営補助金の交付は必要である。当該事業を実施しない場合、協議会における事業も縮小するため運営に支障を来し、その結果、町民の生活にも影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、行政と町民のパイプ役という役割を果たし、町民の生活に支障を来さなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	民生児童委員協議会の活動は、担当地区世帯の見回りなどを実施し、生活状況の把握にも努めている。町からの補助金は、こうした経費にも充てられ、必要最低限の補助を行っており、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
行政と住民のパイプ役も担っており、雄武町民生児童委員協議会が円滑に運営されるためにも必要不可欠なものである。町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		
今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持		
民生委員は、行政と住民のパイプ役という役割も担っており、今後もこの役割を担うためにも、雄武町民生児童委員協議会が円滑に運営されることは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、当面は現状維持が適当と判断する。		
* 展開方向の区分 <input type="radio"/> 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止		

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-15

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町遺族会運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西隆	職名
				氏名
事業の概要	雄武町戦没者の英霊に追悼の誠を捧げるとともに、平和への誓いを新たにすべく英霊の慰霊顕彰に努め、戦没者遺族等の処遇改善の促進と雄武町遺族会の活性化を図るため、運営費の援助を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 <input type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単位施策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	■自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	40千円	40千円	40千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	40千円	40千円	40千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町遺族会	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	処遇改善の促進と活性化		運営補助金の交付		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	事業運営基盤の安定を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	雄武町遺族会の振興と活動の推進が図られる。		① 交付実績	目標年度	19年度
			目標値		
			実績値	40千円	
			達成度	%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①雄武町遺族会への運営費補助	運営補助金の交付				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	雄武町にゆかりのある戦没者の遺族で組織されている雄武町遺族会に対する補助金の交付については、平和と繁栄を築いた先人に対するものであり、町がそれを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、事業運営にも支障を来し、その結果、戦没者に対する感謝や敬愛の念も希薄となる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、雄武町遺族会の活動や運営が促進された。
有効／概ね有効／課題あり		

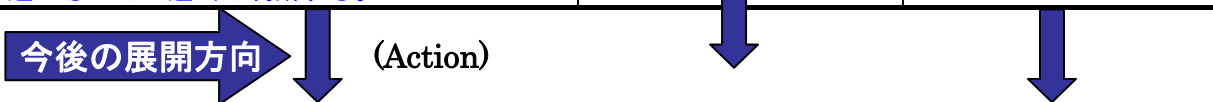
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効果的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	町の補助は、雄武町遺族会の基盤の安定を図るため必要最低限の補助であり、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

〔 A : 計画どおり事業を進めることが適当 B : 事業の進め方等に改善が必要
 C : 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D : 事業の統合、休・廃止の検討が必要 〕

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
雄武町にゆかりのある戦没者の遺族で組織されている雄武町遺族会に対して、会の振興と活動の一助として、運営費の補助を行っている。運営費の補助を行うことで、協会活動のスムーズな運営が促進されるため、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
雄武町にゆかりのある戦没者の遺族で組織されている雄武町遺族会に対する補助金の交付については、平和と繁栄を築いた先人に対するものでもあり、運営費の補助を行うことで、協会活動の活動や運営が促進されるため、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-16

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	紋別地区保護司会雄武支部運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	地域住民の理解と協力のもとに、犯罪や非行の防止、又は犯罪を犯した人の自立更生を支えるための活動を支援するとともに、紋別地区保護司会の活性化を図るため、運営費の補助を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単 位 施 策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	30千円	30千円	30千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	30千円	30千円	30千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	紋別地区保護司会雄武支部	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	犯罪や非行の防止、又は罪を犯した人の自立更生を支えるための活動支援		運営補助金の交付								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	事業運営基盤の安定を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	犯罪や非行の減少		① 交付実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>30千円</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値		実績値	30千円	達成度
目標年度	19年度										
目標値											
実績値	30千円										
達成度	%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①紋別地区保護司会雄武支部への運営補助	補助金の交付										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	地域住民の理解と協力のもとに、犯罪や非行の防止、または罪を犯した人の自立更生を支えるためにも補助金による助成は必要である。当該事業を実施しない場合、犯罪や非行の未然防止を行う活動及び罪を犯した人の自立更生を支える活動にも支障を来す。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、紋別地区保護司会雄武支部における支部活動の運営が促進された。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	町の補助は、紋別支部保護司会雄武支部の基盤の安定を図るため必要最低限の補助であり、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
犯罪や非行の防止、又は罪を犯した人の自立更生を支えるための活動を支援するために、保護司会の活動は必要不可欠であり、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
現在の社会情勢において、犯罪も多様化しており、犯罪や非行の未然防止、又は罪を犯した人の自立更生を支えるためにも、支部活動のスムーズな運営が促進されるため、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-17

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町人権擁護委員協議会運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	人権擁護の啓発活動や相談業務等を通じて、地域住民の基本的な人権を守るための活動を支援するとともに、人権擁護委員協議会の活性化を図るため、運営費の補助を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単 位 施 策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	15千円	15千円	15千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	15千円	15千円	15千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町人権擁護委員協議会	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	地域住民の基本的な人権を守るための活動支援		運営補助金の交付								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	事業運営基盤の安定を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域住民の基本的な人権が守られる。		① 交付実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>15千円</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値		実績値	15千円	達成度
目標年度	19年度										
目標値											
実績値	15千円										
達成度	%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①雄武町人権擁護委員協議会への運営補助	補助金の交付										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	人権擁護の啓発活動や相談業務等を通じて、地域住民の基本的人権を守るための活動を支援するとともに、人権擁護委員協議会の活性化及びスムーズな運営を促進するためにも、補助金の助成は必要である。当該事業を実施しない場合、基本的人権を守るための活動が停滞し、町民の求める支援に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当事業を実施したことにより、相談業務等を通じて、町民の基本的人権を守ることができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	町の補助は、雄武町人権擁護委員協議会の基盤の安定を図るため必要最低限の補助であり、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
人権擁護委員は、地域住民の基本的人権を守る役割を担っており、人権擁護委員の活動は、町民にとって必要不可欠なものである。この役割を担うためにも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
町民の基本的人権を守ることは、安心して生活を送るうえでも必要であり、活動のスムーズな運営が促進されるため、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-18

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	法外援助費			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	共同募金会雄武支部において、毎年12月に「歳末助け合い運動」を実施しており、低所得世帯、独居老人世帯、在宅障害者等を対象に、明るく楽しい正月を迎えられるように義援金を支給しており、町がその一部を負担する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	11	社会保障制度の充実	
	単位施策	4	低所得者の自立の支援	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	200千円	140千円	200千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	200千円	140千円	200千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	低所得者等	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	低所得者等に対する支援		義援金の扶助								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	明るく楽しい正月を迎えること。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	正月に一定の潤いのある生活が送られる。		① 支給件数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	33件	実績値	33件	達成度
目標年度	19年度										
目標値	33件										
実績値	33件										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①義援金の拠出	歳末助け合い運動を実施し、低所得世帯、独居老人世帯、在宅障害者等を対象に支給する義援金の一部を負担する。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	12月(歳末)における町民の安定した生活を送るためにも共同募金会雄武分区が実施する「歳末助け合い運動」に対し義援金の一部を負担することは必要である。当該事業を実施しない場合、義援金を必要とする世帯に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、12月(歳末)における要保護世帯等の生活に支障を来さなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

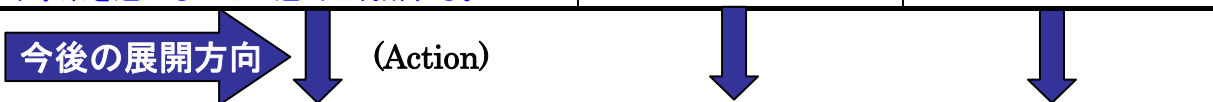
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	平成18年度まで、定額により補助していましたが、平成19年度から、雄武町社会福祉協議会との折半により負担している。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
働くことができない町民などの、要保護世帯等に対し義援金の支給は必要不可欠であり、これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
12月(歳末)における町民の安定した生活を送るための措置として町の支援は必要である。町が義援金の一部を支援することで、要保護世帯等の年末年始の生活に一定の潤いを与えることができ、当分は現状維持が必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-19

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	石油価格高騰緊急対策事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	氏名
				社会福祉係長 宇野敏志
事業の概要	石油価格の高騰により、多大な影響を受ける高齢者世帯等の低所得者層に対し、緊急措置的支援対策として、灯油購入費の一部を助成する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等	平成19年度石油価格高騰緊急対策事業実施要綱		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	2,295千円	3,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	1,795千円	2,500千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等の低所得世帯	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	原油価格の高騰により、灯油価格が高騰している。		当該世帯数								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	灯油購入費の一部を助成する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の生活の安定も一助となる。		① 実績世帯 /対象世帯の申込実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>282世帯</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>233世帯</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>82.6%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	282世帯	実績値	233世帯	達成度
目標年度	19年度										
目標値	282世帯										
実績値	233世帯										
達成度	82.6%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①非課税世帯等への灯油購入費の助成	町民税非課税世帯の高齢者世帯等に対し、10千円分の灯油購入券を配布する。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	低所得者世帯に対する緊急措置的支援対策として必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該世帯の冬期間の生活安定の一助となった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	灯油購入券を自前印刷し、事務経費の削減を行った。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
低所得者世帯の冬期間の生活の安定の一助となった。		



継続／現状維持		
原油価格は更に高騰しており、低所得者世帯の冬期間における生活の安定を図るには、引き続き事業を行う必要がある。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度においても緊急措置的支援対策として、当該事業を行う。

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-20

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	介護予防・生活支援事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	氏名
				宇野敏志
事業の概要	在宅高齢者が要介護状態への進行を防止するため、特別養護老人ホームの空き部屋を活用して短期の宿泊を行うことにより、生活習慣等の指導及び体調調整を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単 位 施 策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	介護保険計画・高齢者保健福祉計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	0千円	0千円	200千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	0千円	150千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	在宅高齢者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	基本的な生活習慣の欠如等により社会生活を営むことが困難である。		利用者数の確保								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	生活習慣等の指導を行い、要介護状態への進行を予防する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者が健康で生き生きと暮らしていけるよう支援を行う。		① 利用回数 /事業の利用者数の実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>0%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	0人	実績値	0人	達成度
目標年度	19年度										
目標値	0人										
実績値	0人										
達成度	0%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①事業の委託	雄武町社会福祉協議会と委託契約により、高齢者が特別養護老人ホームの空き部屋を活用して短期宿泊を行い、生活習慣等の指導及び体調調整を図る。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	社会生活が困難な高齢者の生活機能低下の予防を図るためにも必要な事業である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	本年度の利用はないが、一時的に在宅生活ができない高齢者に対する支援を行うためにも、行政が実施する必要がある。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	事業の実施にあたっては、雄武町社会福祉協議会へ委託し、コストの低減に努めている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
社会生活が困難な高齢者に対する事業であり、計画どおり事業を進めることが適当であるが、潜在的ニーズの把握や特別養護老人ホームの空き部屋の状況により、適切な事業計画の設定が困難である。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
高齢者対策の充実を図るためにも、現状維持が適当であり、今後はニーズの把握と事業の啓発に努めることとする。	指標・目標とする考え方を需要者の立場から考えること。利用がなかったことは、クライアントがいなかったとも捉えることができるが、このサービスが一般に周知されているのを見極めること。	

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-21

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	老人福祉施設措置費			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	65歳以上の者であって、環境上の理由及び経済的な理由によって、居宅で養護することが困難な者に対し、養護老人ホームに入所させ、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な措置を講じている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	□自治事務		■法定受託事務
	その他計画・根拠等	老人福祉法、老人福祉施設入所等措置事務取扱要綱		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	20,401千円	20,745千円	21,681千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	14,758千円	14,563千円	15,296千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	措置の対象と見られる老人の発見及び指導		措置費給付の継続								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	老人とその家族との調和を欠く家庭の減少		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	老人とその家族との調和のとれた家庭の形成		① 措置人数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	12人	実績値	12人	達成度
目標年度	19年度										
目標値	12人										
実績値	12人										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 措置の決定	相談者の申し出に基づき、調査を行い、措置の決定を行う。										
② 措置費の支給	措置依頼している事業所に対し、措置費の支給を行う。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	老人とその家族との調和を欠く家庭において、65歳以上であり、居宅で養護するものが困難な者にとって、養護老人ホーム等への措置入所は欠くことができないものであり、当該事業を実施しない場合、措置を必要とする者に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、措置を必要としている老人に対し、支障を来さなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事業費等支弁額が決定しているため、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
65歳以上で、居宅で養護することが困難な者にとって、措置入所は必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
本事業は、心身の健康の保持及び生活の安定という役割を担っており、老人の福祉を増進する責務を有することから、引き続き実施すべき事業であり、老人福祉法においても、老人福祉推進の責務が明記されていることから、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-22

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町老人クラブ連合会運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	老人クラブの活性化と地域における親睦・交流を深め、高齢者の福祉向上を図るため、雄武町老人クラブ連合会の運営費補助を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	3	社会参加の促進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	高齢者保健福祉計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,000千円	1,000千円	1,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	732千円	675千円	700千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	老人クラブ会員	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	高齢者人口の増加		連合会組織数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	高齢者が健康で生き生きと暮らしていけるよう支援を行う。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者の健康増進と福祉向上が図られる。		① 連合会組織数	目標年度	19年度
			目標値	1団体	
			実績値	1団体	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①老人クラブ連合会への運営費補助	全単位老人クラブが加入している連合会に運営補助を行う。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	高齢者の自主的活動への運営費を補助するもので、地域の全単体老人クラブ加入しており、事業の公平性が保たれている。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	運営費の補助により連合会の活動が活発となり、高齢者の健康の維持と福祉の向上が図られる。
有効／概ね有効／課題あり		

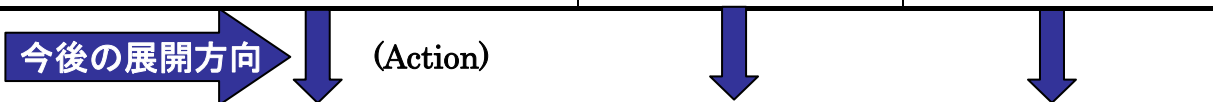
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	組織の計画に沿った事業が実施されており、概ね効率的であると考ええる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
高齢者等が健康でいきいきと暮らしているよう支援するもので、計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
高齢者人口の増加は今後も続くことから、当分は現状維持が適当である。	補助金に代わる支援がないか検討すること。	

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-23

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	高齢者事業団訪問開拓員設置費補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				宇野敏志
事業の概要	雄武町高齢者事業団の育成発展を図るため、訪問開拓員の人件費の一部を補助する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	3	社会参加の促進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	高齢者保健福祉計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	900千円	600千円	600千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	300千円	300千円	300千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町高齢者事業団	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	高齢者の能力と経験を生かした就業機会の確保		訪問開拓員の活動								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	高齢者の生きがい就労の増進		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者が健康でいきいきと暮らせるようになる。		① 訪問開拓員の活動	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1名	実績値	1名	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1名										
実績値	1名										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①高齢者事業団への補助	高齢者事業団の育成発展を図るため、訪問開拓員人件費の一部を補助を行う。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	訪問開拓員活動により、高齢者の就業機会の増大が図られる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	就業機会の増大により、高齢者自身の介護予防や生きがいづくりが図られる。
有効／概ね有効／課題あり		

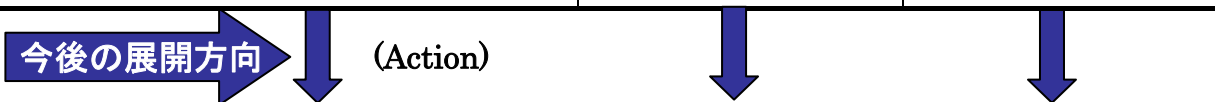
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	高齢者事業団が訪問開拓員活動を行うために必要な補助があり、コストの削減は難しいと考える。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
高齢者等が健康でいきいきと暮らしていけるよう支援するもので、計画どおり事業を進めることが適当である。		



終了	終了	
高齢者事業団の広域化等による自立の促進を図るため、平成20年度で道補助が最終となり、本事業についてもあわせて終了する予定である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-24

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	除雪サービス事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	ひとり暮らしの高齢者等、冬期間の除雪労力が困難な世帯に対し、緊急避難路の確保を図るため、除雪サービスを実施する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	235千円	224千円	500千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	235千円	224千円	500千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	高齢化による対象者の増加		緊急避難路の確保								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	住み慣れた地域で安心して暮らせるように緊急避難路を確保する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町民にとって最低限の生活路線が確保される。		① 実績戸数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>53戸</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>53戸</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	53戸	実績値	53戸	達成度
目標年度	19年度										
目標値	53戸										
実績値	53戸										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①委託契約締結	雄武町社会福祉協議会に対し、事業委託を行った。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	ひとり暮らしの高齢者等、冬期間の除雪労力のない町民の緊急避難路の確保として、除雪サービスは欠くことのできないものであり、町がそれを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、町民の生活に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、緊急避難路の確保を必要とする町民の生活に支障を来さなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	除雪サービスの額は、労力時間により決定するが、民生委員の調査により、必要最低限の路線のみ除雪サービスを実施しているため、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
除雪労力のない、ひとり暮らしの高齢者等にとって、緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-25

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	老人医療費助成事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				主事
事業の概要	老人の健康の保持及び福祉の増進を図るため、医療費の助成を行う			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業		<input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務		<input type="checkbox"/> 法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	683千円	616千円	160千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	683千円	310千円	80千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	生活の負担となる医療費の軽減		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	日常生活の一助		①	目標年度	年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	保健福祉の向上		②	目標値	実績値
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 申請、受給者証の発行	対象者の申請に対し内容を審査し受給者証を発行した。それを基に医療機関にて対象者を判断し医払う医療費を軽減する。				
② 医療費の支出	軽減した医療費の請求書を医療機関が発行し国保連合会を経由し雄武町へ到達、その請求書に基づき、公費負担分の医療費を支出した(毎月)				
③ 補助金請求、実績報告	北海道に対し実績報告等を行い、補助金を請求した。				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	北海道で行っている義務的事业であり、老人福祉の向上のため、医療費の軽減は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	医療費を一部扶助することにより、老人福祉の向上が図られ、生活の一助となったと判断される。
有効／概ね有効／課題あり		

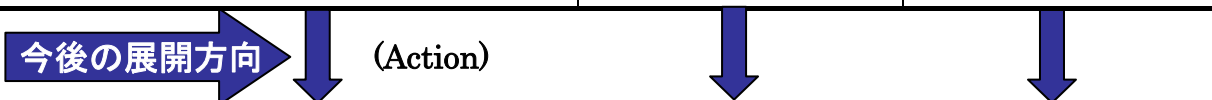
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	特に経費が無いため、コスト削減の余地はないと考える。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
医療費の軽減により生活の一助になったと判断されるが、後期高齢者医療制度に統合のため、平成19年度で廃止		



廃止		
後期高齢者医療制度に統合のため、平成19年度で廃止		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-26

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	在宅福祉推進事業補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	氏名
				社会福祉係長 宇野敏志
事業の概要	雄武町社会福祉協議会が実施するひとり暮らしの高齢者等を対象とした生きがい交流事業、ふれあい訪問事業などの在宅福祉事業の充実を図るため、その経費の一部を補助する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単 位 施 策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	高齢者保健福祉計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	350千円	250千円	250千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	350千円	250千円	250千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	在宅高齢者等	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	支援の強化		円滑な事業の実施								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	高齢者等を対象とした各種事業を行う。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者福祉の増進が図られる。		① 円滑な事業の実施	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	2回	実績値	2回	達成度
目標年度	19年度										
目標値	2回										
実績値	2回										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①雄武町社会福祉協議会への事業費の補助	ひとり暮らしの高齢者等を対象とした在宅福祉事業の経費の一部を補助する。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	高齢者等に対する在宅福祉事業の充実を図るため必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	各種在宅福祉事業が円滑に実施された。
有効／概ね有効／課題あり		

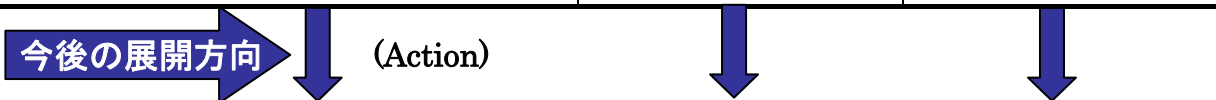
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効果的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事業の充実を図るため、削減の余地はないと考えます。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
在宅高齢者の社会参加や地域での見守り体制の強化など高齢者福祉の増進を図るため、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
在宅高齢者に対する支援は、継続して行う必要があることから、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-27

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	高齢者入浴優待事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				主査
				武藤知憲
事業の概要	高齢者、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者に健康の増進と生きがいの充実を図ることを目的として実施している			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	雄武町高齢者等入浴優待事業実施要綱		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	2,072千円	2,175千円	2,100千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	2,072千円	2,175千円	2,100千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	高齢者等に対する支援		入浴優待券交付枚数								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	高齢者等における健康の増進と生きがいの充実を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	老人福祉、障がい者福祉の向上を図る		① 実績人数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>713人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値		実績値	713人	達成度
目標年度	19年度										
目標値											
実績値	713人										
達成度	%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 入浴優待券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、ホテル入浴優待券を交付										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	高齢者や障がい者等にとって、温泉入浴は、健康の増進と生きがいの充実を図るうえで、楽しみの一つであり、町がそれを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合は、生きがいの充実が損なわれる恐れがある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、高齢者等の健康増進と生きがいの充実が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	前年度の申請者については、予め申請書を作成していたため、申請者による申請書の記載する時間が短縮でき、申請者の待つ時間も短縮できた。コストについては、必要最低限で実施しているため、削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
温泉入浴を楽しみにしている町民にとって、健康増進及び生きがいの充実の観点からも必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえで、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
健康増進及び生きがいの充実を図るために町の支援は必要であり、高齢者福祉及び障害者福祉の向上のため、継続して行う必要があることから、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-28

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	居宅老人交通費助成事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				主査
				武藤知憲
事業の概要	居宅において生活を営む老人の通院等に要する交通費の助成を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	2	生活支援の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	居宅老人交通費助成要綱		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	4,658千円	4,592千円	5,600千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	4,658千円	4,592千円	5,600千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	高齢者で車を持っていない者に対する支援		交通費の助成		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	病院受診時等に要する費用が緩和される。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者に対する福祉の向上が図られる。		① 交付実績	目標年度	19年度
			目標値		
			実績値	484名	
			達成度	%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①助成券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、交通費助成券を交付している。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	自家用車を持たない町民の移動手段として、通院などに要する交通費の助成は欠くことのできないものであり、町がそれを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、健康増進を損なうおそれがある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、通院等に利用している町民の交通費負担を軽減することができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	前年度の申請者については、予め申請書を作成していたため、申請者による申請書の記載する時間が短縮でき、申請者の待つ時間も短縮できた。コストについては、必要最低限で実施しているため、削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
自家用車を持たない町民の通院等の交通費助成は必要不可欠である。町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
健康増進を図るためにも町の支援は必要であり、高齢者福祉の向上のため、継続して行う必要があることから、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-29

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	敬老祝金支給事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	敬老の日を基準日とし、喜寿、米寿、白寿及び上寿に該当する高齢者に対し、長寿を祝福するとともに多年の労をねぎらい、町民の敬老思想の高揚を図ることを目的として、敬老祝金の支給を実施している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	3	社会参加の促進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	雄武町敬老祝金支給条例、雄武町敬老祝金支給条例施行規則		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,790千円	1,780千円	2,260千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,790千円	1,780千円	2,260千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	敬老思想の希薄化		祝金支給の継続								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	多年の労を労い、町民の敬老思想の高揚を図る		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者自らが健康増進に努める意欲の向上が図られる		① 支給実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値		実績値	80名	達成度
目標年度	19年度										
目標値											
実績値	80名										
達成度	%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 敬老祝金の支給	高齢者台帳を作成し、敬老の日を基準日として、喜寿、米寿、白寿、上寿に該当する者に敬老祝金を支給										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	敬老の節目を迎える高齢者に対し、長寿を祝福することは、多年の労に対する労いや敬老思想の高揚を図るうえでも欠くことのできないものであり、それを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、敬老思想が薄れ、健康増進に努める意欲が低下するおそれがある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	高齢者自らが健康増進に努める意欲の向上及び各地区敬老会の開催など町民の敬老思想の高揚が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

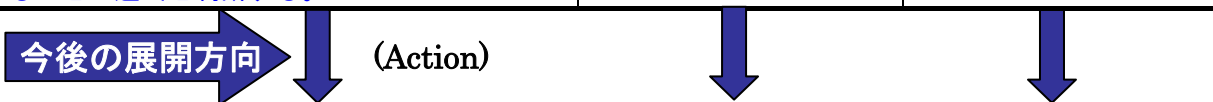
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	敬老祝金は雄武町敬老祝金支給条例及び雄武町敬老祝金支給条例施行規則に基づいて、適切な支給を行っており、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
長寿を祝福することは、多年の労に対する労いや敬老思想の高揚を図ることは、高齢者支援充実の観点からも必要不可欠であり、高齢者福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
健康増進及び敬老思想の高揚を図るために事業の継続は必要であり、当分は条例に基づき、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-30

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	敬老会賄費助成事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	敬老の日を中心として、多年の労を労うことを目的として、各自治会において開催している敬老会の開催に係る費用負担の一部を賄費として支給している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	3	社会参加の促進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,374千円	1,428千円	1,540千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,374千円	1,428千円	1,540千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	満75歳以上の高齢者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	—		敬老会賄費の支給		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	長寿を祝福することは、多年の労に対する労いや敬老思想の高揚を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	郷土愛に溢れた町民育成		① 助成対象人数	目標年度	19年度
			目標値	714人	
			実績値	714人	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①敬老賄費の支給	満75歳以上の高齢者の人員を把握し、各自治会長に確認をとり、各自治会における人数を確定させたうえで、賄費を支給した。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	敬老の節目を迎える高齢者に対し、敬老会を開催し長寿を祝福することは、多年の労に対する労いや敬老思想の高揚を図るうえでも欠くことのできないものであり、それを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、各地区において開催する敬老会に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	敬老会に係る賄費を支給したことにより、高齢者自らが健康増進に努める意欲の向上が図られ、敬老会の開催などにより町民の敬老思想の高揚が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	敬老会を開催するための必要最低限度の助成であり、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
高齢者自らの健康増進に努める意欲の向上と敬老会の開催などにより町民の敬老思想の高揚を図るために、賄費の支給は必要不可欠であり、高齢者福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
町からの助成は、高齢者自らの健康増進に努める意欲の向上と敬老思想の高揚を図るための措置として町の支援は必要である。敬老の節目を迎える高齢者と地域住民にも、敬老会の開催は生活に溶け込んでおり、最低限の助成は確保すべきである。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-31

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	社会福祉施設備品購入事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	福祉センター及び地域包括支援センターの電話設備について、耐用年数の経過による老朽化及び停電時は使用不可のため、設備の更新を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	2	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	19	消防・救急・防災体制の強化	
	単 位 施 策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	1,079千円	千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	1,079千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	福祉センター電話設備	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	停電時における使用不可状態		電話設備の更新								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	停電時における使用		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安定的な運用		① 電話設備の更新	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①電話設備の更新	停電時にも使用可能な電話設備の更新を図った。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	福祉センターの電話設備は、災害等の停電時において使用不可となることから、安定的な運用を図るため、停電時にも使用可能な電話設備に更新する必要がある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	電話設備の更新により、停電時においても安定的な運用が可能となった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効果的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	見積書を徴し、適正価格により購入した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
非常時における安定的な運用を図るため、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



終了		
電話設備を更新し、事業が終了した。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-32

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	自立支援医療（更生医療）給付事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西隆	職名
				氏名
事業の概要	疾病、事故、災害等による身体的損傷に対する医療（治療）を終え、既に治癒（欠損治癒、変形治癒等の不完全治癒）した方や、腎臓機能の低下により、継続的な透析治療が必要な方等で、身体障害者手帳を所持する方に対し、日常生活能力又は職業能力を回復させることを目的として行う総合的なりハビリテーション医療に対し、給付している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単 位 施 策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等	障害者自立支援法		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	1,044千円	10,740千円	14,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	-188千円	1,775千円	3,500千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）								
【抱える課題や二一ズは】	生活を逼迫する、障害者の透析等の多大な医療費		需要に対する供給								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	日常生活能力の回復、自立		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	福祉医療の充実		① 総事業費の内町が負担した額÷雄武町が対象者より単独で支出を必要とされた額	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,755千円</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1,755千円</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1,755千円	実績値	1,755千円	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1,755千円										
実績値	1,755千円										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容（どのような手段で何を行ったか）											
① 申請書の受理、進達	申請を受付、内容の審査及び心身障害者総合相談所に判定依頼した。その判定結果を受け、給付券の発行をした。										
② 補助金の申請	補助金の申請、実績報告をし、補助金を受領した。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	生命に関わる治療等に要する医療費の助成であるため、必要と判断される。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	医療費の軽減が図られることにより、対象者が治療を受けやすくなり、自立の促進に繋がるため、目標は達成されているものと判断される。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	特に発生する経費が無いため、コスト削減の余地はない
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
障害者自立支援法に定める事業であり、滞りなく事業を行うことにより、本事業の対象とする治療を必要とする町民の生命が維持されるため、計画どおり事業を取り進めることが適当		



継続/拡充		
生命に関わる治療や手術を必要とする町民が、自立した生活を送るために必要な事業であり、近年、高齢化等により同様の障害者が増加傾向にあるため、拡充が適当と判断される。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-33

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	重度心身障害者医療給付事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	重度心身障害者の方の医療費の一部を給付することにより、疾病の早期発見と早期治療を促進し、保健の向上及び福祉の増進を図ることを目的として医療費の一部を給付している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単 位 施 策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	15,693千円	11,928千円	16,600千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	7,855千円	5,085千円	8,300千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標 / 目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	多大な医療費による生活の逼迫		需要に対する供給		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	生活の一助、福祉医療の充実		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	福祉医療の向上		① 総事業費の内町が負担した額÷雄武町が対象者より単独で支出を必要とされた額	目標年度	19年度
			目標値	8,300千円	
			実績値	8,300千円	
			達成度	100%	
			②	目標年度	年度
				目標値	
				実績値	
				達成度	%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 申請、受給者証の発行	申請を受理し受給者証を発行した。それを基に、医療機関は対象者を判断し負担する医療費を軽減する。				
② 医療費の支出	軽減した分の医療費の請求書を発行し国保連合会を経由し雄武町へ送付、その請求書に基づき、国保連合会が医療を一時負担して、後日、雄武町が国保連合会へ支払った。				
③ 補助金請求、実績報告	北海道に対し実績報告等を行い、補助金を請求した。				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	福祉、医療の向上のため必要と判断される。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	受給者証を発行することにより、負担区分が明確となっているため、受給者の利用や医療機関においてスムーズな事業の運営が図られている。また、受給者も全員利用しており、医療費の軽減が図られていると判断される。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	健康保健制度等との連動が必要なため、事務を効率的に実施するための仕組みづくりに検討を要する。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
重度の障がい者に対する医療費の負担軽減は、生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断される。		



継続/現状維持	継続/現状維持	
北海道医療給付事業のひとつであり、国民健康保険証と連動した医療給付であり、全道規模の自治体の義務的業務であるため、継続、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-34

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	身体障害者補装具費支給事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西隆	職名
				氏名
事業の概要	障がい者及び障がい児がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障がい福祉サービスに係る給付その他の支援を行い、もって障がい者及び障がい児の福祉の増進を図るとともに、障がいの有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単 位 施 策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等	障害者自立支援法		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,814千円	2,159千円	1,500千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	665千円	709千円	375千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	補装具によっては、耐用年数が短期的な物があるため、購入費や修理費がかさむ。		需要に対する供給								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	障がい者の生活の一助、福祉医療の充実		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生活の安定、保健福祉の向上		① 総事業費の内町が負担した額÷雄武町が対象者より単独で支出を必要とされた額	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>375千円</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>375千円</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	375千円	実績値	375千円	達成度
目標年度	19年度										
目標値	375千円										
実績値	375千円										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 申請・判定・補助	申請書及び見積書を徴し、町で審査を行い、支給券を発行した。補装具の支給を確認次第給付した。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	利用者負担の軽減について、自己負担は少ないに越したことは無く、現在の制度で十分な効果を得られていると判断される。また、自治体の義務的なものであり、身体障がい者の福祉向上を図るため必要と判断される。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	障がい者の負担軽減が図られており、十分に目的は達成されているものと判断される。
有効／概ね有効／課題あり		

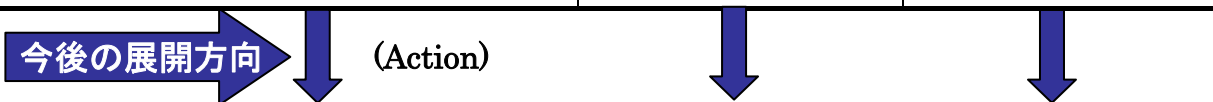
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事務処理において発生する支出の大半は扶助費であるため、コスト削減に努めることは難しいと判断される。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
補装具の購入、修理は障がい者が日常生活を送るうえで必要不可欠なものであり、計画どおり事業を進めることが適当と判断される。		



継続／現状維持		
補装具の購入、修理は障がい者が日常生活を送るうえで必要不可欠なものであり、今後も、継続することが妥当であると判断される。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-35

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	心身障害者年金支給事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				主事補
				川口敦史
事業の概要	年金を支給して、その精神的うらおいと希望を与えて心身障がい者の福祉の向上を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単位施策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	雄武町心身障害者年金条例		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,951千円	1,962千円	2,100千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,951千円	1,962千円	2,100千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	重度心身障害者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	重度心身障害者に対する支援		前年度の支出基準における当該年度の支出状況		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	重度心身障害者の福祉の向上		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	重度心身障害者の福祉向上が図られる。		① 当該年度の支出額 ÷ 前年度の基準で算出した当該年度の支出額	目標年度	19年度
			目標値	1,962千円	
			実績値	1,962千円	
			達成度	100%	
			②	目標年度	年度
				目標値	
				実績値	
				達成度	%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 給付	10月1日に重度障害者に障害者年金を支給した。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	障がい者に対する理解が年々高まる中、未だ、障がい者福祉の充実にはいたっていない。よって、障がい者福祉向上を図るため、必要と考える。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	不況が続く中、生活の一助として概ね有効である。
有効／概ね有効／課題あり		

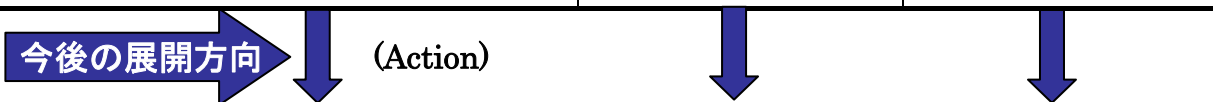
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	条例の規定に基づく支給を行っており、これ以上のコストの削減は困難である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
長期にわたり日常生活又は社会生活に制限を受けている者に対し、精神的うらおいと希望を与えた。		



継続／現状維持		
全国的な不況が続く中、社会的制限を受ける障がい者の福祉向上を図るため、障害者年金を支給するものであり、障がい者福祉の充実には至っていないため、事業の継続、現状維持は必要と考える。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-36

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	重度身体障害者ハイヤー料金助成事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	雄武町の区域内に住所を有する者で、身体障害者手帳（1級又は2級）又は療育手帳（A判定）の交付を受けた者等に対し、健康と福祉の向上を図ることを目的とし、ハイヤーを利用する場合の基本料金分を助成している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単位施策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	419千円	475千円	600千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	419千円	475千円	600千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	重度身体障害者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	重度身体障害者に対する支援		助成券交付枚数								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	障がいを持つ者と持たない者の共生		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	障がいを持つ者への最低限の交通路線が維持される。		① 交付人数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	32人	実績値	32人	達成度
目標年度	19年度										
目標値	32人										
実績値	32人										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 助成券の交付	ハイヤーの移動支援を必要とする障がい者に対して、ハイヤーを利用する場合の基本料金分の助成券の交付										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	ハイヤーの支援を必要とする障がい者の移動手段として、助成券の交付は欠くことのできないものであり、障がいをもつ方とそうでない方が共生できる町づくりのためにも、事業を維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、障がいを持つ方の外出が減り、健康面にも害を及ぼす
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、ハイヤーの利用を必要としている障がい者の交通費負担の軽減が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	現にハイヤーの利用を必要とされる、身体障害者手帳所持者(下肢障害者)等や療育手帳所持者等に交付するものであり、通院のみならず、外出するのにもハイヤーが必要となるための必要最低限度の助成を行っており、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
ハイヤーの移動が必要な障がい者への必要不可欠な支援である。現状を維持することは、障がい者に対する生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
ハイヤーの移動が必要な障がい者へ対する支援として、町として、障がい者の足として確保すべきものであるため、当分は現状維持が必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-37

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町身体障害者福祉協会運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	身体障害者手帳所持者で組織されている雄武町身体障害者福祉協会の活動活性化と、協会事業の振興に寄与するとともに、協会の福祉向上を図るため、運営費の補助を実施している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単 位 施 策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	30千円	30千円	30千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	30千円	30千円	30千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町身体障害者福祉協会	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	運営基盤が脆弱である。		前年度の実績との比較		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	事業運営の円滑化を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	協会事業の振興に寄与するとともに、福祉の向上とスムーズな運営		① 本年度補助額÷前年度補助額	目標年度	19年度
			目標値	30千円	
			実績値	30千円	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①補助金	協会の運営費の補助をした。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	障害者が集まる、団体の運営に対し補助を行うことにより交流等の活動を促進させ、精神のうるおい、福祉の向上に繋がるため、必要と考える。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	協会のスムーズな運営が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	本協会の運営規模等は、他の団体との均衡が図られていると考えられる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
本団体は、多くの障害者が集まり交流する場であるため、団体の維持、存続は福祉向上のため必要不可欠なものである。		



継続／現状維持		
本団体は、障害者福祉の向上に大きな役割を担っており、その団体の運営に対し助成することは、多大な意味を持つものと考えられ、継続、現状維持が妥当と判断する。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-38

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	障害程度区分認定事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	障害者自立支援法に基づく、障害福祉サービスの支給決定を行う際、利用の可否及び報酬単価の決定を行うため、障害程度区分の調査を行い、障害程度区分の判定を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単位施策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	障害者自立支援法		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	140千円	122千円	160千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	21千円	48千円	80千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	障害程度区分認定調査員や認定審査会委員の後育成		障害程度区分の認定調査及び審査判定	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	障害程度区分の適正な判定		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	障害者福祉の向上		① 障害程度区分認定者人数	目標年度 19年度 目標値 10人 実績値 10人 達成度 100%
		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
① 障害程度区分の認定調査	資格を有する障害程度区分認定調査員が、障害者自立支援法における障害福祉サービスの支給決定の可否及び支給量の目安とするため調査を実施する。			
② 障害程度区分の認定審査	障害程度区分の認定調査に基づき、審査会委員において審査判定を行う。			
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	本事業は、障がい者の福祉サービスの支給決定及び支給量の決定を行うために欠くことのできないものである。当該事業を実施しない場合、町民が必要とするサービスを受けられないため、生活に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、障がい者の福祉サービスの適正な支給決定を行うことができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	緊急的な場合を除き、審査判定をまとめて実施したため、事業費を抑制及び時間短縮・作業軽減を図ることができた。これ以上の削減の余地はないと判断している。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
障がい者の適正なサービス支給及び支給量を決定するため、障害程度区分認定事業は必要不可欠である。障がい者における生活及び福祉の向上を図るうえでも計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
障害程度区分の認定については、障害者自立支援法や町の条例でも規定されており、町が実施することは当然の責務である。当分は現状維持が必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-39

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	障害者自立支援給付事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	障害者自立支援法に基づく、障害福祉サービスの利用に対する支援費を支給している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単位施策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	障害者自立支援法		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	60,899千円	71,025千円	73,166千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	13,845千円	16,580千円	18,292千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	施設入所等の地域移行		障がい者が利用するサービスに対する給付費の扶助								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	施設等に入所している障がい者が安心して地域で暮らせるようにする。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	障がい者とそうでない方が共生できる。		① 給付人数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	43人	実績値	43人	達成度
目標年度	19年度										
目標値	43人										
実績値	43人										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 障害福祉サービスの給付	障害程度区分の認定及び町の定める支給決定基準に基づき、障がい者が利用する福祉サービスの給付費を扶助する。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	障害者自立支援法に基づく、給付費の扶助を行うことは、欠くことはできないものであり、事業を維持することは町の責務である。当該事業を実施しないと、福祉サービスの利用を必要とする障がい者本人やその家族に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、障がい者の福祉サービスの適正な支給決定を行うことができた。
有効／概ね有効／課題あり		

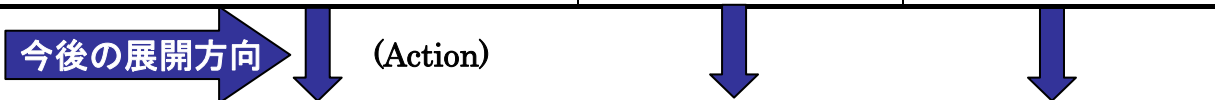
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	障害者システム導入により、事務に要する時間及び作業が軽減された。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
障害福祉サービスを必要とする障がい者にとって、給付費の扶助は必要不可欠であり、障がい者の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
障害福祉サービスの給付費の支援については、障害者自立支援法にも規定されており、町が実施することは当然の責務である。当分は現状維持が必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-40

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	障害者等地域生活支援事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	氏名
				社会福祉係長 宇野敏志
事業の概要	障害者自立支援法に基づく市町村事業として、障がい者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるための支援を行い、障がい者等の福祉の増進を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単 位 施 策	1	自立支援対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	障がい者計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	585千円	2,771千円	3,750千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	931千円	1,164千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	障がい者等	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	障害者自立支援法に基づく障がい者等への支援		サービスの提供								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	自立した日常生活及び社会生活を営むことができるための支援を行う。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	障がい者等の福祉の増進を図られる。		① サービスの提供	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①サービスの提供	本町の基準に基づき、日常生活用具の給付や日中一時支援など各種サービスの提供を行う。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	障害者自立支援法によるサービスの提供であり、障がい者等に対する福祉の増進のために必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	本町の基準に基づき支給量の決定を行うため、適切な支給量の決定及び障がい福祉の向上が図られている。
有効／概ね有効／課題あり		

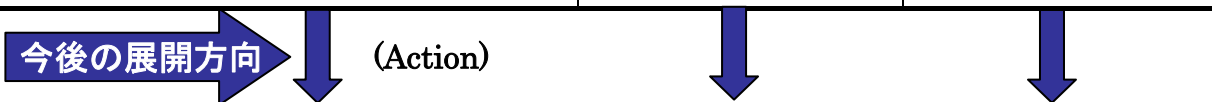
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	障害者自立支援法に基づく事業であり、これ以上のコスト削減は困難である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
障害者自立支援法に基づく事業であり、障がい者等に対する福祉の増進のため計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続／現状維持		
障害者自立支援法に基づく事業であり、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-41

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	西紋地区療育センター運営負担金及び西紋地域発達支援センター運営負担金			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西隆	職名
				氏名
事業の概要	障がいやその心配のある子どもを対象に早期発見と早期療育、各種療育相談等を行い、子どもとその家族を支援する専門機関である西紋地区療育センターと発達障がいのある子どもの支援を目的とする西紋地域発達支援センターに対し、西紋5市町村において、運営費の負担をしている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登録事業		□非登録事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	9	障がい者支援の充実	
	単位施策	2	ニーズに対応した教育・保育の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	795千円	482千円	261千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	795千円	482千円	261千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	障がいやその心配のある子どもの早期発見		負担金による運営費の負担		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	障がいやその心配のある子どもの早期治療		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	早期発見と早期治療により未来の雄武町を担う後継者を育成する。		① 利用者人数	目標年度	19年度
			目標値	6人	
			実績値	6人	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 運営費の負担	西紋5市町村において、西紋地区療育センター及び西紋地域発達支援センターの運営費を一部負担し、障がいやその心配のある子どもに対して支援を図る。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	障がい者やその心配のある子どもを対象に早期発見と早期治療、各種療育相談等を行い、子どもとその家庭を支援する専門機関に対して運営費を負担するものであり、町が支援を維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、障がい者やその心配のある子どもならびにその家族にも影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、障がい者やその心配のある子どもならびに家族に対し、精神的な余裕や安心を育み、今後の方向性を示すことができ、家族からの相談に対しても支障を来たさなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	運営費の負担は、本町のほか、紋別市、興部町、西興部村、滝上町の5市町村で、均等割と利用割に区分し負担しており、障がい者やその心配のある子ども等への支援を維持するための必要最低限の負担をおこなっており、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
障がい者やその心配のある子どもならびに家族に対し、両センターは必要不可欠である。現状を維持することは、障がい者等の生活や福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
障がい者やその心配のある子どもにとって早期発見や早期療育という障がい者支援の充実という役割を担い、現在利用している町民にとってサイクルに溶け込んでおり、最低限の障がい福祉基盤として確保すべきものであるため、町の支援は必要である。また当町だけではなく、同じく負担している近隣自治体の関係もあり、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-42

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	ひとり親家庭等・乳幼児医療給付事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	ひとり親及びその子どもならびに乳幼児等に対し、疾病の早期発見と早期治療を促進し、保健の向上と福祉の増進を図ることを目的として医療費の一部を給付している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単 位 施 策		3（少子化問題への対応）4（ひとり親家庭等の充実）	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	雄武町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例等		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	9,487千円	9,206千円	11,310千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	5,416千円	5,327千円	7,250千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	医療費の増崇		医療費の給付								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	医療費の支援		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町民の保健福祉の向上が図られる。		① 助成人数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>341人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>341人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	341人	実績値	341人	達成度
目標年度	19年度										
目標値	341人										
実績値	341人										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① ひとり親家庭等給付	対象者が窓口にて助成の申請を行い、審査のうえ、医療費を給付した。										
② 乳幼児医療給付	対象者が窓口にて助成の申請を行い、審査のうえ、医療費を給付した。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	ひとり親世帯における親子及び乳幼児等の医療費の一部を給付することにより、疾病の早期診断と早期治療を促進し、保健の向上と福祉の増進を図るため、町の支援は必要である。当該事業を実施しない場合、町民が必要とする診療を受けない場合が考えられ、健康に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、保健の向上と福祉の増進が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	申請書の提出に際し、ひとり親医療給付事業については、8月の児童扶養手当の現況届の提出時に申請書の提出を求め、乳幼児については、更新案内に申請書を同封するなど、時間短縮及び作業軽減に努めた。コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
ひとり親家庭等における親子及び乳幼児をもつ家庭にとって、医療費の給付は必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
ひとり親家庭等の親子及び乳幼児に対する医療費の給付は、疾病の早期診断及び早期治療を促進するため、町の支援は必要であり、当分は現状維持が必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-43

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町母子会運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
				主査
				武藤知憲
事業の概要	ひとり親家庭（母子世帯）で組織されている雄武町母子会の活動活性化と、母子会事業の振興寄与及び福祉向上を図るため、運営費の補助を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単位施策	4	ひとり親家庭支援の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	20千円	20千円	20千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	20千円	20千円	20千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	雄武町母子会	指標／目標	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	母子会の活性化				
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	母子会の活動活性化と事業振興		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	母子会活動のスムーズな運営が促進される。		①	目標年度	年度
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容（どのような手段で何を行ったか）					
① 雄武町母子会運営補助金の交付	雄武町母子会に対して運営費の補助を行う。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	雄武町母子会の円滑な運営を図るため運営費補助の交付は概ね必要であると判断する。当該事業を実施しない場合、運営に支障を来す恐れがある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、各種事業が円滑に実施された。
有効／概ね有効／課題あり		

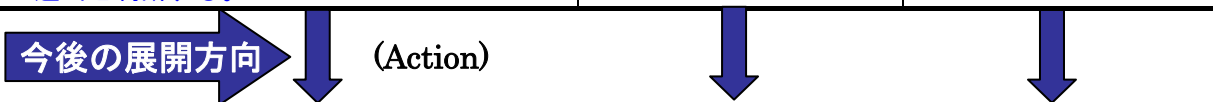
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	ひとり親家庭となった町民の精神的な支えとなる団体であり、円滑な運営を図るうえでも、補助を行っているが、ある程度、母子会自体の運営基盤も安定しているが、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
ひとり親家庭となった町民の精神的な支えとして、母子会の存続は必要不可欠であり、現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
母子会自体は必要であるが、今後の動向により町の補助金に依存しない団体として自立することも可能である。ただ、当面は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-44

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	特別養護老人ホーム等施設運営支援事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	特別養護老人ホーム等の指定管理者制度による事業委託に伴い、委託先法人の運営基盤安定を図るため、財政支援を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	1	介護サービスの充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	5,000千円	10,000千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	5,000千円	10,000千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町社会福祉協議会	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	運営基盤が脆弱である。		委託先法人の運営基盤の安定		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	運営基盤の安定を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	特別養護老人ホーム等の安定的な経営が図れる。		① 委託先法人の運営基盤の安定	目標年度	19年度
			目標値	10000千円	
			実績値	10000千円	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①雄武町社会福祉協議会への運営費補助	特別養護老人ホーム等の指定管理者制度による事業委託に伴い、委託先である雄武町社会福祉協議会の財政支援を行う。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必 要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	特別養護老人ホーム等の安定経営のため、必要不可欠である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有 効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	委託先法人による事業の安定経営が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

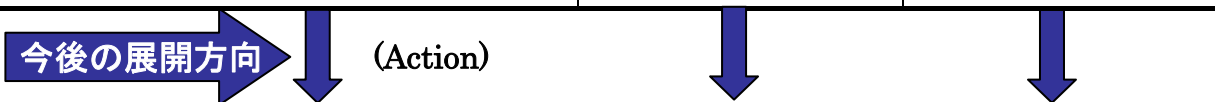
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	安定経営を図るため、コスト削減は難しい。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

〔 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要 〕

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
特別養護老人ホーム等の安定経営を図るため、計画どおり事業を進めることが適当である。		



終 了		
運営支援は時限的措置であり、平成19年度をもって終了した。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-45

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	介護サービス事業特別会計繰出金			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	特別養護老人ホーム等の拡張整備に伴い、介護サービス事業特別会計を設置した。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業		<input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	10	地域福祉の推進	
	単位施策	1	福祉意識の醸成	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務		<input type="checkbox"/> 法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	1,040千円	2,166千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	千円	1,040千円	2,166千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	介護サービス事業特別会計の歳入不足		介護サービス事業特別会計の歳入不足の解消								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	介護サービス事業特別会計の歳入不足の解消		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	介護サービス事業特別会計の運用		① ／介護サービス事業特別会計の歳入不足の解消	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1040千円</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1040千円</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1040千円	実績値	1040千円	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1040千円										
実績値	1040千円										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①介護サービス事業特別会計	介護サービス事業特別会計の歳入不足分を一般会計より繰入を行った。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	指定管理者制度により介護サービス収益がないため、一般会計からの歳入不足分の繰入は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	必要額の繰入により、歳入不足とならなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

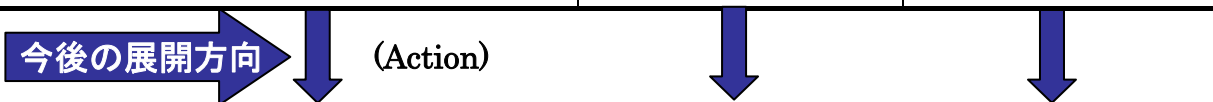
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効果的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	必要額の繰入であり、コスト削減は不可能である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
必要額のみ繰入であり、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
今後は、起債の償還分の繰入が必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-46

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	老人福祉施設改修事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	経年経過により老朽化している寿の家について、改修整備を行い施設の適正管理を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単位施策	3	社会参加の促進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	791千円	870千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	791千円	870千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等の活動拠点施設	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	施設の老朽化		改修施設		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	活動拠点の整備、施設の延命化		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者等の社会参加、生きがい活動の促進		① 改修施設	目標年度	19年度
			目標値	1施設	
			実績値	1施設	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①施設の改修	魚田寿の家の改修工事を行った。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	高齢者等の社会参加、生きがい活動の促進を図るための拠点整備として必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	施設の改修により、高齢者等の活動拠点の整備と施設の延命化が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

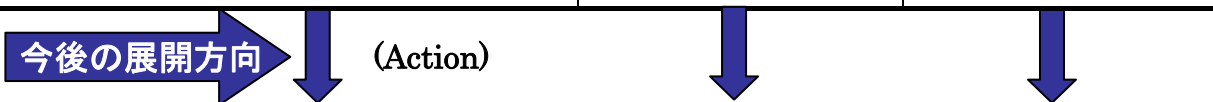
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	見積り合せにより、適正価格で工事を発注した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
高齢者等が安心して利用できるよう計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続／現状維持		
各地区の高齢者等が安心して利用できるように、計画どおり事業を進めることが適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-47

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	児童手当支給事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	12歳到達後、最初に迎える3月31日までの間にある児童（小学校修了前の児童）を養育している方に対して、児童手当を支給している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単 位 施 策	3	小児化問題への対応	
	事務事業の種類	□自治事務		■法定受託事務
	その他計画・根拠等	児童手当法		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	23,335千円	29,586千円	30,660千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	7,613千円	8,719千円	8,724千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	例年増加する、子どもを養育するために要する費用		交付状況		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	児童を養育している者に支給することにより、生活の安定、児童の健全な育成及び資質の向上		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童を養育している者の生活の安定、児童の健全な育成及び資質の向上		① 交付実績	目標年度	19年度
			目標値		
			実績値	8,724千円	
			達成度	%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①給付	年3回に分けて、受給者に支出した。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	自治体の義務的的事业であり、児童を養育している者に支給することにより、生活の安定、児童の健全な育成及び資質の向上を図るうえで必要と判断される。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	受給対象者に滞りなく支給することにより、目的は十分達成されたと判断される。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効果的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	特に経費として支出しているものが無く、町単独事業でもないため、削減箇所は無いものと判断される。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
児童を養育している者に支給することにより、生活の安定、児童の健全な育成及び資質の向上を図るうえで、計画どおり事業を進めることが適当と判断される。		



継続／現状維持		
自治体の義務的な事業であり、児童を養育している者に支給することにより、生活の安定、児童の健全な育成及び資質の向上を図るため、現状維持が適当と判断される。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 5-48

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	指定訪問介護事業運営補助事業			
評価者	担当課・係名	保健福祉課社会福祉係		
	課長等	職名	保健福祉課長	作成者
		氏名	葛西 隆	職名
				氏名
事業の概要	本事業は、高齢者等が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援するために欠かせない在宅介護サービスであり、町内唯一の指定業者である雄武町社会福祉協議会に対し、事業運営費の収入不足額の支援を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	7	高齢者支援の充実	
	単 位 施 策	1	介護サービスの充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	介護保険事業計画、高齢者保健福祉計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	4,200千円	4,000千円	4,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	4,200千円	4,000千円	4,000千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町社会福祉協議会	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	事業運営費の不足によりサービス提供を行うヘルパーの確保が困難である。		ヘルパーの配置人員								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	サービス提供体制の安定		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	サービスを安定して提供することが可能となる。		① ／雄武町社会福祉協議会のヘルパーの配置人員	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	4人	実績値	4人	達成度
目標年度	19年度										
目標値	4人										
実績値	4人										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①雄武町社会福祉協議会への事業運営費補助	指定訪問介護事業者である雄武町社会福祉協議会に対し、事業運営費の収入不足額を補助し、在宅介護サービスの安定供給を図る。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	高齢者等が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自立した日常生活ができるように行うものであり、町内唯一の指定訪問介護事業者である雄武町社会福祉協議会が在宅介護サービスの安定供給を図るため必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	サービスの安定供給が可能となるホームヘルパーの4人確保が可能となった。
有効／概ね有効／課題あり		

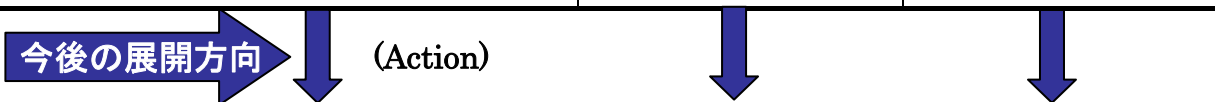
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効果的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事業者において自主財源確保を促すため、毎年度補助金を削減しており、今後の削減は困難である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
町内唯一の指定訪問介護事業者である雄武町社会福祉協議会が、在宅介護サービスの安定供給を図るため必要であり、計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続／現状維持		
雄武町社会福祉協議会が、在宅介護サービスの安定供給を図るため、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項